

〔講師紹介〕

第3回全通研学校Ⅱ「社会福祉(全通研運動)」《中国会場》

2008年6月28日(土)～29日(日) 広島市 東区地域福祉センター

(〒732-0055 広島市東区東蟹屋9-34 TEL082-263-8443)

「対人労働の負担特性と健康」

天理大学 体育学部教授 近藤 雄二 氏

<講師プロフィール>

全通研が長年取り組んできた健康問題に客観的な立場から、その意義について検証を加えていただき、今回はテーマである「対人労働の負担特性と健康」について幅広い視点から講義いただきます。

講師からのメッセージ「働く人々の健康性、安全性、快適性を考慮した労働条件デザインづくりを進めています。働く人の健康をとりあげる場合、単に『労働者を対象』にするのではなく『労働者がかかえている問題を対象』にすることが必要です。それには問題解決と労働の喜びをつくりだす実践が求められます。

多くの産業、業種や様々な職場の労働者の話と作業を観察してきた経験から、対人労働がもつ負担の特性がどのような健康上の問題に結びつくのか、その解決法を含めて話題を提供したいと思います。」

著書に「『慢性疲労』そのリスクのマネジメントを学ぶ(学習の社)」、「介護職の健康管理(分担執筆 ミネルヴァ書房)」、「グローバル化における労働安全衛生活動 ISOの理解とマネジメント(財・労働安全衛生研修所発行 職場研究報)」他。



「聴覚障害者の福祉と
全通研運動」

全国手話通訳問題研究会 運営委員 山形 恵治 氏

<講師プロフィール>

京都ろうあセンターの手話通訳者を経て城陽市役所福祉課に勤務。全通研では、1988年から事務局員として主に手話通訳者の健康問題に関する事業に携わってきました。2001年から運営委員となり、編集局長などを経て現在は出版部長を担当しています。行政の障害者福祉に33年間、従事した経験と全通研活動を基に、今回「聴覚障害者の福祉と全通研運動」について講義いただきます。

講師からのメッセージ「障害者福祉の措置制度から支援費による利用契約制度、障害者自立支援法の施行とコミュニケーション支援事業など、近年の聴覚障害者福祉の変動を踏まえ、全通研の研究・運動のあり方について考えてみます。」



「研究活動をとおしての
全通研運動」

全国手話通訳問題研究会 運営委員 渡辺 正夫 氏

<講師プロフィール>

現在、全通研の研究部長として「全国手話通訳問題研究集会(夏集会)」、「全国手話通訳問題研究討論集会(冬集会)」、「全通研学校」、「手話通訳のあり方検討委員会」、「支部研究助成」等の統括を行っています。

千葉県の教員として、特別支援教育に長く携わり、現在は船橋市総合教育センターに勤務、聾教育や全通研運動に関する講演活動を行っています。

全通研では、1989年から19年にわたり運営委員を務め、全通研運動の中心メンバーの一人として活躍、今回は研究活動を切り口とした全通研活動について講義し、全体のテーマである「社会福祉(全通研運動)」についても近藤氏、山形氏の講義を踏まえて総括します。

講師からのメッセージ「出来るだけ、身近なことから始める研究活動についてお話ししたいと思います。」



申込先:各全通研支部

申込締切り 2008年 6月 6日(金)